

# 奥州湖周辺エリア活用整備構想

**【別冊 参考資料】**

— 目次 —

1. モンベルのネットワークを活用した情報発信について・・・P.2
2. ジャパンエコトラックについて・・・P.6
3. SEA TO SUMMIT (シートゥーサミット) について・・・P.12

# 1. モンベルのネットワークを活用した情報発信について

---

## 1) モンベルの会員組織（モンベルクラブ）

モンベルが運営する会員組織モンベルクラブは、アウトドアを楽しむ人々をサポートする目的で 1985 年に発足した有料登録（年会費 1,500 円）の会員組織で、会員数は 2023 年 12 月時点で 114 万人にのぼります。会員に登録することで、会員カードや公式アプリを使って、様々な特典を受けることが可能となります（アウトドアフィールドやイベント情報の取得、モンベル提携施設・エリアでの優待サービス、会員限定イベントへの招待、製品購入時のポイントシステムなど）。単に製品購入のためだけの会員組織ではなく、製品を使うフィールドやガイドツアーなどの情報、また、フィールド周辺の優待施設情報を得ることができるという付加価値を求める形で構成されており、会員は年会費 1,500 円を支払っているため、その求める度合いは無料の会員組織に比べて非常に高く、会員継続率 80%という高い値もそれを証明しています。モンベルは、アウトドア志向の強い人々の集まりであるこの会員組織に対し、会報誌（年 4 回発行）やメールマガジン、会員限定イベント等、様々な告知プロモーションツールを使った情報発信を行っており、アウトドア関連情報の PR 手段として、宿泊・旅行・ガイドサービスなどの業界で高い評価を得ています。

## 2) モンベルと地域との連携（フレンドエリア、フレンドショップ）

モンベルはモンベルクラブ会員のアウトドアライフをサポートするために、日本各地の自治体やアウトドア関連施設と提携関係を結び（フレンドエリア、フレンドショップ）、会員を始め、モンベルのネットワークを活用した情報発信を広く行っています。会員がカードやアプリを提示すると、割引など様々な優待が受けられる提携施設が「フレンドショップ」で、各種アウトドア施設や宿泊施設、飲食店、レンタカー、フェリーなど、その数は全国に 2,000 ヶ所以上あります。「フレンドショップ」が集まり、都道府県・市町村・島・山域など地域ぐるみで会員のアウトドアライフをサポートするのが「フレンドエリア」で、本市を含め、その数は全国に 123 地域あります（2023 年 12 月時点）。

## 3) モンベルのネットワークを活用した広域連携

全国各地に広がる 123 地域の「フレンドエリア」、2,000 ヶ所以上の「フレンドショップ」のネットワークを活用することで、地域をまたいだ広域でのアウトドアツーリズムの展開が期待できます。岩手県内では本市の他に、岩泉町、雫石町がフレンドエリアに登録しており、隣接する青森県・秋田県・宮城県では計 7 地域が登録しています。これらの地域をつないでいくことで、本市だけにとどまらない広域のアウトドアツーリズム構築が可能となります。また、全国 114 万人のモンベルクラブ会員への情報発信のほか、全国に 125 店舗（2023 年 12 月時点）あるモンベル直営店舗でのアウトドアファン層への情報発信を行うことで、本市の魅力的なアウトドアアクティビティやフィールドを周知することが可能となります。

## 4) 具体的な展開

モンベルフレンドエリアに登録することで、下記展開が可能となります。

### ① 会員特典ガイド

会員特典をまとめた、A4版・フルカラーの冊子。  
年一回（5月）発行し、その発行部数は100万部以上になります。各フレンドエリアのページでは、エリアの魅力やフィールド情報、フレンドショップ一覧、会員特典などを紹介しています。



### ② モンベル公式WEBサイトへの情報掲載

会員特典ガイドと連動する形のページを作成します。冊子に掲載しきれなかった情報や各施設のWEBサイトURLなどの追加情報を掲載できます。

### ③ モンベル公式アプリとの連動

公式アプリでは、WEBサイトと連動する形でフレンドエリアの情報を紹介するのはもちろん、GPSによる地図検索やカテゴリ・キーワードを絞ったフレンドエリア・フレンドショップの検索も簡単に行えて便利です。

### ④ 会報誌「OUTWARD」へのタイアップ記事、広告掲載（有料）

年4回（2月・5月・8月・11月）発行の会員向け情報誌。  
通常は広告掲載を受けていませんが、フレンドエリアに関しては、タイアップ記事等での広告展開が可能です。



### ⑤ モンベルストア店頭でのPR

全国のモンベルストア125店舗（2023年12月時点）でのPRが可能です。店頭を設置された提携先専用のパンフレットラックにパンフレットを設置（有料）。1店舗ごと、1ヶ月単位での設置が可能なため、ターゲットを絞った展開も可能となります。また、サロンスペースが併設された店舗においては、イベントやフィールドのPRを行うイベントを展開することも可能です（有料）。

### ⑥ 会員限定イベント「フレンドフェア」への出展（有料）

フレンドエリア・ショップをはじめ、自然保護団体、野外教育団体、旅行会社などの提携団体とモンベルクラブ会員を直接つなぐ会員限定のイベント「モンベルクラブ・フレンドフェア」へ優待価格にて出展が可能です。



## ■ フレンドフェア（地域開催型）

地域の観光・アクティビティ情報を発信する対面型のイベントです。以前は、横浜や大阪など大都市圏での開催が中心でしたが、近年は全国のフレンドエリアでの開催が主となっています。

## ■ フレンドフェア（オンライン）

全国のモンベルクラブ会員にフレンドエリア・ショップの魅力を伝えるオンライン型のイベントです。フレンドエリアおすすめの観光情報やフィールドの紹介、プレゼント企画などモンベルクラブ会員とつながるコンテンツでエリアの魅力を発信できます。

## ⑦ モンベルふるさと納税プログラム（有料）

モンベルではふるさと納税の代行サービスも行っています。モンベルクラブ会員限定で納税者にはポイントが加算される仕組みとなっています。通常の返礼品とは異なる、モンベルふるさと納税サイトだけのオリジナル返礼品の企画も請け負います。

例) モンベル製品のカスタマイズ返礼品、フレンドショップの施設利用券、  
モンベル直営店やフレンドショップで販売可能な地域限定商品 など

The screenshot shows the Mont-Bell website's 'ふるさと納税' (Furusato Nosen) page. At the top, there's a navigation bar with 'mont-bell' logo, 'ログイン', and a search bar. Below the navigation bar, there's a main banner for 'ふるさと納税' with a '5%分のモンベルポイント付与' (5% Mont-Bell points bonus) offer for members. The banner text reads 'mont-bell フレンドエリア ふるさと納税 モンベルクラブ会員さま限定'. Below the banner, there's a sub-header 'ふるさと納税を通じて、地域のさまざまなプロジェクトを応援しよう！' (Support various projects in the region through Furusato Nosen!). There are three main sections with icons: 1. '自治体から選ぶ' (Choose from municipalities) with a heart icon, 2. '使い道から選ぶ' (Choose by use) with icons for accessibility and nature, and 3. '返礼品から選ぶ' (Choose by gift) with a gift icon. Each section has a brief description of the service.

## ⑧ モンベル・アウトドア・チャレンジ (M.O.C) との連携によるツアー造成

本市のアウトドアフィールドを活用した体験イベントやツアーを造成する際、また、体験イベントやツアーの案内をするガイドの育成を検討する際にも、モンベルのネットワークを活用することができます。



モンベルが運営するイベント・ツアーの企画・運営部門であるM.O.C（モンベル・アウトドア・チャレンジ）では、提携しているフレンドエリアやフレンドショップと共同で、イベント・ツアーを企画しています。地域に応じたツアーやイベントを企画し、モンベルのネットワークを使った情報発信により、幅広い集客が期待できます。



#### <M.O.C イベントの特徴>

幅広いコースと対象者	初心者でも気軽に楽しめる体験イベントから、上級者向けの本格コースまで、行きたいコースや体力レベルに合わせて、参加イベントを選択することができる。
参加者の特徴	平均年齢・・・30代後半 男女比（全体）・・・男性4：女性6
少人数制で安心・安全	スタッフが参加者に丁寧な対応ができるよう、原則として少人数制を採用。アットホームな雰囲気フィールドや人（インストラクター）のファンを獲得。リピート来訪（参加）を目指す。

#### <M.O.C の告知媒体>

M.O.Cのイベント・ツアーは、WEBサイトやパンフレット等を通して、モンベルクラブ会員やモンベルストア来店者を始めとしたアウトドアファン層へ広く告知できます。

#### <イベント企画・催行による効果>

##### ○地元フィールドのPR

本市の自然や文化、人の魅力をお客様へ直接告知・紹介できます。

##### ○来訪者の増加・リピーター（再来訪）の獲得

地元の自然を熟知し、地元を愛する方がお客様を直接案内することで、より魅力を伝えることができるため、再来訪につながるケースが多いです。

##### ○雇用の創出と移住の促進

本市にアウトドアツーリズムが定着すれば、ガイド業を希望する若者の移住を促進することができます。

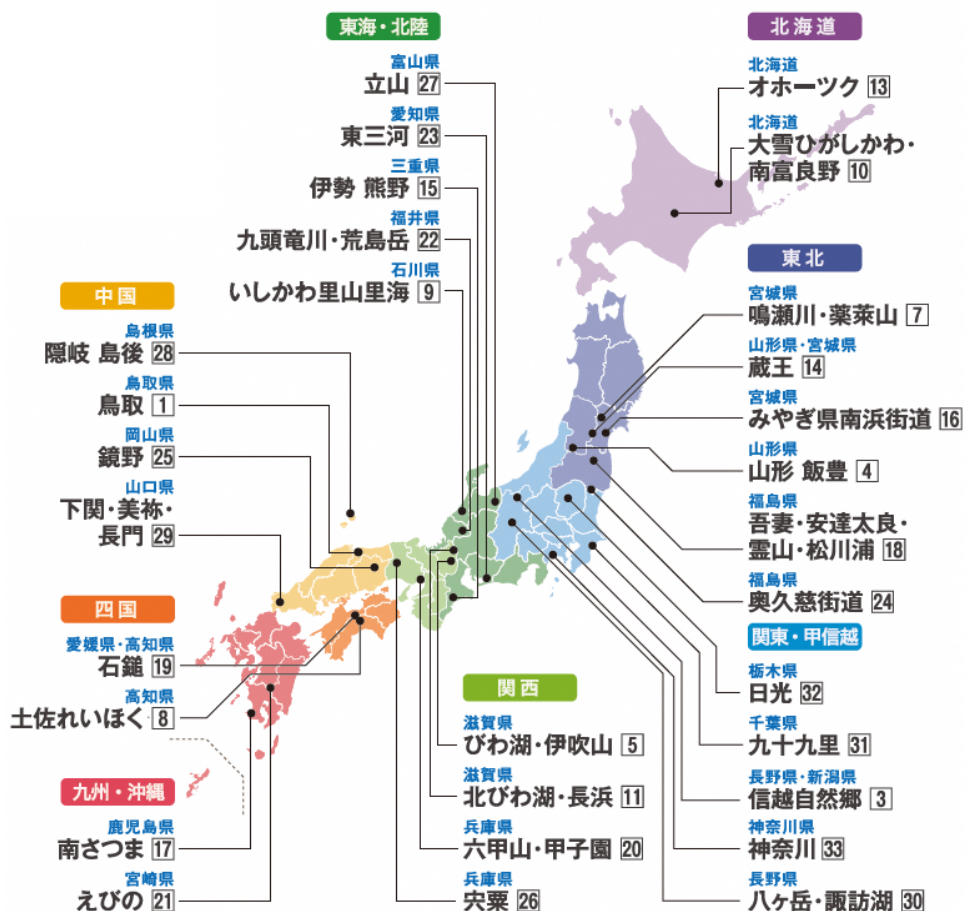
## 2. ジャパンエコトラックについて

### 1) 「ジャパンエコトラック」とは

「ジャパンエコトラック (JAPAN ECO TRACK)」とは、トレッキング、カヤック、サイクリングといった人力による移動手段で、日本各地の豊かで多様な自然を体感し、地域の歴史や文化、人々との交流を楽しみながら旅をする新しい旅のスタイルです。ジャパンエコトラックに登録された地域では、統一されたデザインの公式ルートマップをベースに、ルート情報、協力店の情報、地域の魅力を発信し、受け入れ体制を整備することで、旅行者の快適な旅をサポートします。地域による“おもてなしの心”で、旅行者と地域の関係を密なものにし、リピーターの獲得や口コミ効果による更なる観光事業の活性化が期待できます。



### JAPAN ECO TRACK ジャパンエコトラック 全国MAP





## 2) ジャパンエコトラックの運営組織

ジャパンエコトラックに関わる事業を具体的に計画・運営する組織として、養老孟司氏（東京大学名誉教授）を代表理事とする「ジャパンエコトラック推進協議会」が2015年5月に発足しました。理事は各界の著名人で構成され、登録エリアの各都道府県知事も顧問として名を連ねています。ジャパンエコトラックの発案者であるモンベルグループ代表・辰野勇氏が専務理事を務め、モンベルグループ内に事務局が設けられています。

ジャパンエコトラック推進協議会は、アウトドアツーリズムでの旅行者の来訪を目指している地域と連携し、それぞれの特性を活かした旅のルートを国内外に広く発信し、旅行者の来訪を促進することで、地域の活性化と自然環境の保全に寄与することを設立趣意としています。

## 3) ジャパンエコトラックの展開

### ① ルートの設定

トレッキング、サイクリング、カヤックなどのアウトドアアクティビティを楽しめるルートを設定します。ルート上では、その土地ならではの地域資源（景観、自然、歴史、文化、食など）を楽しめ、地域的な広がりをもち広域におけるアウトドアツーリズムの提案をできることが重要です。

### ② 標識整備（道路や登山道）

設定したルートごとに統一されたデザインの道路標識や案内板を設置します。特に、進路変更が必要な箇所や不明瞭な道筋、危険箇所など来訪者が安全・快適にアウトドアアクティビティを楽しめることに配慮し、適切な場所へ設置することが必要となります。道路に転写する路面表示や登山道の標識看板は、国や県の管轄となるため、関係各省庁、自治体との調整が必要となる場合があります。



自転車ルートの路面表示  
「鳥取（鳥取県）」



登山ルートの道標  
「宍粟（兵庫県）」



道の駅に設置されたルート案内看板  
「北びわ湖・長浜（滋賀県）」



### ③ ルートマップ（ガイドマップ）の作成・配布

設定したルート情報をまとめた公式ルートマップを制作します。マップのデザインは全国共通のフォーマットを使用することで、来訪者が情報を見やすく比較しやすくすることが重要です。制作したマップは地域の観光案内所や駅、空港などで配布するだけでなく、モンベルが全国で直営展開しているアウトドアショップ（店舗数：125 店舗／2023 年 12 月時点）に設置することで、アウトドアファン層へ広く訴求します。

ルートマップは基本的に日本語がベースとなりますが、英語や韓国語、中国語などの外国語版も制作することで、海外観光客の誘客効果が期待できます。



「下関・美祢・長門（山口県）」エリアのルートマップ誌面

#### 【ルートマップ掲載情報例】

- 体験できるアウトドアアクティビティ（トレッキング、サイクリング、カヤックなど）
- ルート情報（距離、標高差、体力レベルの目安、所要時間など）
- ルート上の協力店や観光名所
- 給水所やトイレ、道の駅やコンビニエンスストアなどの場所
- 観光案内所や公共交通機関などの連絡先

### ④ 公式 WEB サイト、スマートフォンアプリへの情報掲載

ルートマップ（冊子）の情報掲載スペースには限りがあるため、掲載できなかった情報は、公式 WEB サイトやスマートフォン向けの公式アプリで補足紹介します。WEB サイトやアプリには冊子より多くの情報量を掲載できるため、地域の魅力をより深く発信することが可能となります。



## <ジャパンエコトラック公式アプリ>



### ■ ルート検索機能

- ・アクティビティやエリアからルート検索が可能。
- ・走行距離、体力レベルなど、様々な条件での絞り込み検索が可能。

### ■ GPS 地図機能

- ・ルート上の現在地に加え、施設情報や見所の確認が可能。
- ・現在地の標高や残り距離、獲得標高も確認可能。
- ・ルート上に設定されたポイントを通るとスタンプが獲得でき、スタンプを全て集めると「デジタルバッジ」が獲得できるなど、達成感を満たす仕掛けがある。
- ・マップをあらかじめダウンロードしておけば、オフラインでも使用可能。



### ■ マイページ機能

- ・獲得したデジタルバッジの一覧を閲覧可能。
- ・過去の活動やアクティビティ別の総活動距離、時間、獲得標高をマイページ上に記録。





## ⑤ 協力店の募集とツーリスト受け入れ体制の強化

トレッキングやサイクリング等のアウトドアアクティビティを楽しむ旅行者の利便性を高めるため、トイレ・給水の対応や、バイクラックの設置、空気入れ・工具の貸し出しなどを行う「協力店」を募集します。設定した各ルート of 要所にこれらの協力店を設置し、気軽に安心して楽しめるアウトドアツーリズムの環境を整備します。既存施設に協力を呼びかけ、地域全体での連携を強化する必要があります。



## ⑥ 交通インフラとの連携

サイクリングやカヤックでは、アウトドアアクティビティを楽しむために大きな装備の運搬が必要となります。また、目的地から出発地点まで戻ってこられる交通網が整備されていない場合には、来訪者は周回や往復のコースを選択する傾向があります。ルートの始点・中継点・終点において、バス・電車・タクシーなどの交通機関との連携を強化し、例えば、自転車を輪行せずに持ち込めるUD（ユニバーサルデザイン）タクシーや自転車を持ち込むことができるサイクルバス・サイクルトレインの運行、自転車やカヤックを運べるキャリアの付いたタクシーや登山口まで運行する乗合タクシーの運行など、快適な旅を提供できる環境づくりを目指します。



車外にサイクルラックを装備した路線バス



サイクルキャリアを装備したタクシー



車椅子の乗り入れや自転車が積み込み可能なUDタクシー

## ⑦ ツアー会社との連携

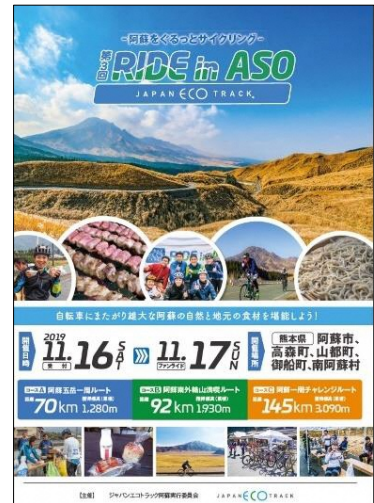
ジャパンエコトラックのルートを楽しむパック旅行をツアー会社と連携して商品化します。個人旅行だけではなくツアー客の誘致も目指します。

また、海外の旅行社やアウトドア・旅系の媒体（雑誌、WEB）を対象としたモニターツアーを開催し、海外での情報発信につなげることで海外からの誘客も期待できます。



## ⑧ ルートを活用したイベントの開催

ジャパンエコトラックのルートを活用したイベントを開催することで、地域内外に周知することができます。特に地域住民のアウトドアツーリズムに対する理解を深めていくことで、来訪者を受け入れるホスピタリティも向上し、さらなる来訪者の獲得につながります。また、イベントを開催する中で、標識や案内看板、交通インフラ整備の必要性などの課題も見えてくるため、効果的に受け入れ体制の整備を進めていくことが可能となります。



「阿蘇」で開催されたジャパンエコトラックのルートを活用した自転車イベントの様子

## ⑨ インバウンドを意識した展開

近年の外国人来訪者の旅のスタイルとして、有名観光地以外の日本各地を巡りたい、地域の生活や文化を体験し、住民との交流を楽しみたいという「滞在交流型」観光を志向する個人来訪者が増えています。外国人来訪者は、日本人観光客にとってオフシーズンや平日といった観光地の弱点を埋めてくれることもあり、インバウンドへの取り組みは地域経済の安定化にもつなげることが期待できます。

### 3. SEA TO SUMMIT (シートゥーサミット) について

#### 1) SEA TO SUMMIT (シートゥーサミット) とは

「SEA TO SUMMIT」とは、海（湖、川）・里・山に親しむイベントとして、アウトドアアクティビティを楽しむだけでなく、自然とふれあい、環境について考えることで、自分たちをとりまく自然環境を再認識できる「環境スポーツイベント」です。大会は2日間で行われ、1日目は自然環境や地域振興について考える「環境シンポジウム」を開催、2日目は海から山へ、カヤック・自転車（バイク）・登山（ハイク）を組み合わせ、自然の循環を廻ります。

「SEA TO SUMMIT」の商標はモンベルに帰属しており、開催条件としては、モンベルフレンドエリア（※）であることが第一条件となっています。

※モンベルフレンドエリアの詳細に関してはP.2～参照。

**2023 環境スポーツイベント シートゥーサミット®**

**SEA TO SUMMIT®**

海・里・山のつながりに思いを巡らせながら自然を体感!  
 海で発生した水蒸気が、雨や雪となって山に降り、川となって森や里を潤し、再び海へと運ってゆく…  
 「SEA TO SUMMIT®」は、海から山へと人力で進むなかで自然の循環を体感し、  
 自然の大切さについて考える環境スポーツイベントです。

**全国11大会**

- 北海道 オホーツク 6.17-18
- 山形県・秋田県 鳥海山 8.26-27
- 宮城県・青森県 宮城 加美町 10.7-8
- 山形県 山形 月山 7.22-23
- 長野県 千曲川・高社山 10.14-15
- 滋賀県 びわ湖 東近江 5.20-21
- 新潟県 糸魚川・上越・妙高 7.15-16
- 岡山県 岡山 備前 7.1-2
- 鳥取県 皆生・大山 5.27-28
- 広島県 江田島 6.10-11

**BIKE 山のステージ**

**BIKE 里のステージ**

**KAYAK 海のステージ**

**定員** 各大会300名限定 [団体人数に準じて] (参加費別記あり)

**プログラム**

**1日目 環境シンポジウム** (参加費別記あり)

**2日目 アクティビティ** (カヤック・バイク・ハイク)

**参加スタイルが選べます!**

- すべてのステージに一人参加! **シングルの部** (個人参加)
- 気の合う仲間や家族と一緒に楽しめます! **チームの部** (2-5名)
- 各大会のステージの中で参加が可能な **バラチャレンジの部**

**募集期間** エントリー受付:各大会2か月前 ~ 締め切り:各大会1か月前  
※先着300名限定(個人参加)に限り、受付を終了します。※参加申し込みはオンラインで必ず行います。

SEA TO SUMMIT / シートゥーサミット® 株式会社モンベルの登録商標です

2023年度は全国で11大会実施



## 2) 開催による効果

### ① アウトドア愛好家へのPR効果

2009年の第1回大会（鳥取県、皆生・大山）開催以降、2023年までに全国各地で累計97大会開催しています。2020年、2021年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で全大会中止となりましたが、多くの大会は継続的に開催しており、リピーターの獲得や地域住民の理解、地域イベントとしての定着が進んでいます。大会当日は参加者だけでなく、協力者（家族や友人など）も同時に訪れています。

情報発信においてはモンベルのネットワーク（メールマガジン、フレンドエリア告知ツールなど）を有効に活用することで、全国114万人のモンベルクラブ会員をはじめとしたアウトドア愛好家へ、イベントだけではなくエリアの魅力についても効果的にPRすることができます。

※モンベルのネットワークを使った情報発信に関してはP.2～参照。



### ② 環境保全意識の啓発

環境シンポジウムでは、国内外や地域で自然保護活動に従事されている方々や、地元で地域振興に努める方々の講演やパネルディスカッションを通じて、環境保全や地域振興に関して理解を深めます。この環境シンポジウムは、参加者はもちろん、誰でも無料で参加可能としています。講演内容に興味のある学生や、周辺の地域住民も広く参加することで、自分たちを取り巻く自然について理解を深め、環境保全に関して考えるきっかけ作りとなります。また、翌日は、フィールドである海・里・山を水の循環を遡る形で、自然を感じながらアクティビティを楽しみます。



#### <環境シンポジウムの開催実績>

##### 【基調講演（講演者・講演タイトル・開催大会）】

畠山重篤（NPO 法人森は海の恋人理事長）

「森は海の恋人 人の心に木を植える」／江田島大会（2015年）

中井徳太郎（環境省大臣官房審議官）

「つなげよう、支えよう 森里川海プロジェクト」／佐渡大会（2016年）

内山りゅう（ネイチャーフォトグラファー）

「奇跡の清流 銚子川」／三重 紀北大会（2018年）

清水則雄（広島大学准教授）

「世界に誇る WONDER SEA 瀬戸内の魅力」／江田島大会（2019年）



## ■ 環境保全協力金

参加費には環境保全協力金として、一人当たり 500 円が含まれます。集めた環境保全協力金は地元的环境保護団体等に寄付します。参加者は参加することで、そのエリアの環境保全に寄与することができます。

## ■ 大会にあわせた環境保全活動の実施（任意）

カヤックステージが海の大会では、主催者側の働きかけで、参加者へ任意でビーチクリーン活動の参加案内をしていますが、ほとんどの方が参加されます。特に、大会直前に台風等の自然災害に見舞われた大会では、自主的に参加者や主催者側が清掃活動を行うなど、参加者及び関係者の環境意識の高さがうかがえます。



ビーチクリーンの様子  
(江田島大会)

## ③ 地域の関係団体の橋渡しに

大会の開催には、様々な団体の協力が必要となります。地元自治体をはじめ、警察・消防・山岳会（登山部門の安全管理）・漁協（カヤック部門の安全管理）・サイクリング協会（自転車部門の安全管理）・商工会・メディア・企業など、多岐にわたります。普段は一緒に活動することのなかった団体同士が、本イベントを開催することで、横のつながりが生まれ、イベント後の地域活性化にも寄与します。

## ④ 地域住民へのアウトドアアクティビティの浸透

本イベントの参加者の多くは地域外からの参加となります。アクティビティ当日には、多くのカヤックが海や湖・川を漕ぎ進む様子や、サイクリストが地域内を走り抜ける様子が見られるため、地域住民も必然的にイベントへ関心を持つようになります。地域住民がアウトドアアクティビティに興味をもち、実際に自分たちで楽しむようになれば、地域のアウトドアフィールド整備や受け入れ体制の充実につながります。

## ⑤ 地域の魅力を PR

大会開催に合わせて、各地域でマルシェやおもてなしブースを併催しています。地元の特産品（野菜やくだもの、加工品等）を紹介することで、参加者への地域の魅力の PR につながっています。また、参加者向けに、地元で配布している観光案内パンフレット等を事前に配布することが可能です。周辺のおすすめの飲食店や宿、観光スポット等を事前に紹介することで、大会前後の地域内での滞在や観光を促すことができます。



特産品のりんごを PR  
(妙高・野尻湖大会)

### 3) 本市での開催可能性

#### ① コンセプト

「SEA TO SUMMIT」のコンセプトは、「アクティビティを通じて自然の循環を感じることにあります。自然の循環とは、「海で発生した水蒸気が、雨や雪となって山に降り注ぎ、川となって森や里を潤し、再び海へ還っていく」という水の循環をあらわしています。海をカヤックで漕ぎ、自転車で里を走り、歩いて山頂へ登ることで、水の循環を遡ることができます。

本市に海はありませんが、奥州湖をはじめ、胆沢川や北上川など、水の循環を感じることができる最適なフィールドがあります。特にパドルスポーツの拠点となっている奥州湖周辺エリアを舞台とし、本市の自然環境に対する理解を深めてもらう環境シンポジウムとアクティビティを結びつけることで、「SEA TO SUMMIT」のコンセプトと合致した大会開催が可能となります。

#### ② 開催環境、運営体制

本市では「カヌージャパンカップ」のようなパドルスポーツイベント、「栗駒焼石ほっとライド」のようなサイクリングイベント、「いわて奥州きらめきマラソン」のようなランニングイベントの開催経験があり、こうした実績を参考に「SEA TO SUMMIT」の運営体制も検討していくことが可能です。

「SEA TO SUMMIT」は環境への負荷を考慮し、参加者を300名に限定しており、交通規制等を行わないのが一般的であることから、自転車ルートはなるべく交通量の少ない道や時間帯で設定します。また、自転車ルートの発着点には最大で300台受け入れ可能なバイクラック設置用のスペース確保が必要となります。登山ルートに関しては、一般登山客で混み合うシーズンは避ける、または、登りと下りのルートを別にするなど検討する必要があります。

#### ③ 会場・設備の条件

開会式、環境シンポジウム、各アクティビティスタート場所、閉会式について、各会場の条件を満たした施設・設備が必要です。

開会式、 シンポジウム	<ul style="list-style-type: none"><li>・300～500名が収容可能</li><li>・駐車場が十分な数を確保できること（150台以上）</li><li>・音響施設、プロジェクター等映像投影機器があること</li></ul> ※室内・外問わないが、室外の場合には会場の設営や雨天時の対応が必要
カヤック スタート	<ul style="list-style-type: none"><li>・海、川、湖の沿岸で、カヤックが出艇できる場所であること</li><li>・カヤックを最大で300艇置いておくことが可能な場所であること</li><li>・駐車場が十分な数を確保できること（150台以上）</li></ul>

<p>自転車 スタート</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイクラックを最大 75 台（自転車 300 台分）置いておくことが可能な場所であること</li> <li>・駐車場が十分数あること（150 台以上）</li> </ul>
<p>登山 スタート</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車ゴール地点も兼ねるため、バイクラックを最大 75 台（自転車 300 台分）置いておくことが可能な場所であること</li> <li>・駐車場が十分な数を確保できること（150 台以上）</li> </ul>
<p>閉会式</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・300 名が収容可能</li> <li>・駐車場が十分な数を確保できること（150 台以上）</li> <li>・音響施設、プロジェクター等映像投影機器があること</li> </ul> <p>※室内・外問わないが、室外の場合には会場の設営や雨天時の対応が必要</p>

